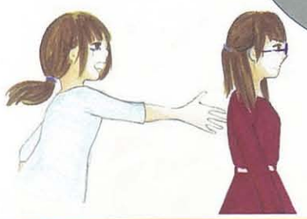
薬物乱用の周りへの影響

家族に犯罪者がいることを知られたくなくて、家族全員社会とのかかわりを避けていた。

危険ドラッグを使用して隣人の女性宅に侵入し、顔・両腕などを切りつけ、ケガを負わせた。（2014年 東京）

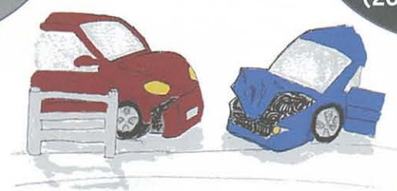
家族や友達への影響

金銭トラブルが増え信頼してもらえなくなり、友達が離れていった。



社会への影響

危険ドラッグを使用したあと車を運転し、次々と他の車にぶつかり重大な事故を引き起こした。（2014年 福岡）



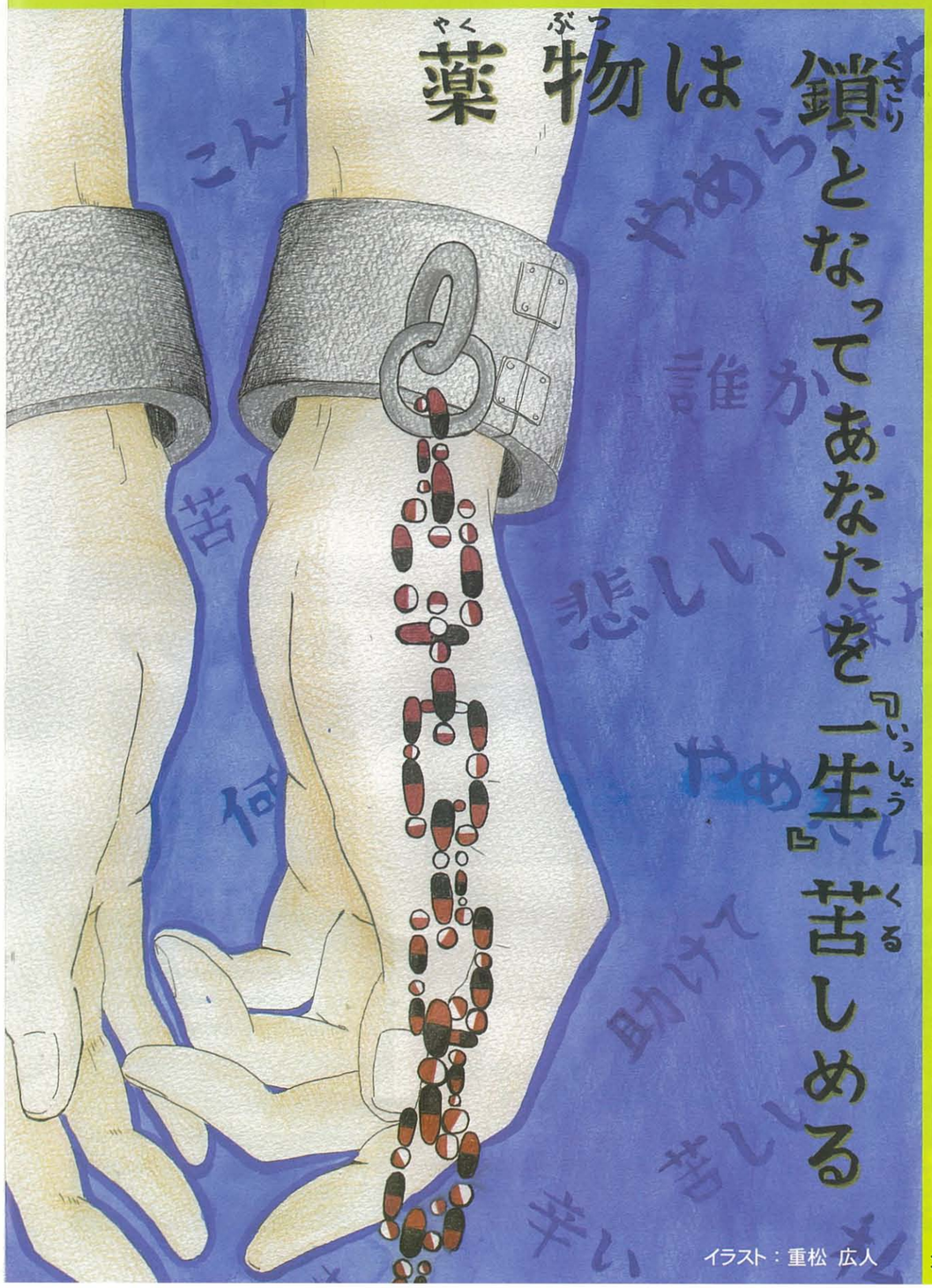
友達から薬物の誘いを受けたら・・・

友達や先輩の誘いを断ると、「仲間はずれになるかも・・・」と不安になるかもしれません。しかし、その友達や先輩も薬物が欲しいがために誘っており、お金を稼ぐことが目的かもしれません。それは本当の友達でも頼れる先輩でもありません。

きっぱりと断ることが大切です。

平成30年度発行：久留米市保健所　総務医薬課
〒830−0022　久留米市城南町15番地5　久留米商工会館4階
TEL　0942−30−9725　FAX　0942−30−9833
イラスト協力：久留米市立南筑高等学校美術部

Yes To Life, No To Drugs.



イラスト：重松 広人

薬物乱用を許さない！

久留米市保健所

薬物乱用とは？なぜいけないの？

1回だけでも乱用！！

薬物乱用とは、薬物を社会ルールから外れた目的や方法で使用することです。乱用というと繰り返し覚せい剤などの違法薬物を使用することを想像しやすいですが、**1回だけの使用でも乱用です。**
また、薬局や病院でもらう医薬品を病気や傷の治療以外に使用することも薬物乱用にあたります。

なぜ、薬物乱用はいけないのか？

個人への影響
薬物乱用は人間が生活していく上で最も大切な脳を侵します。さらに、乱用すると依存症という病気を引き起こします。一度ダメージを受けた脳は決して元の状態には戻りません。その障害は一生ついてまわることになります。

社会への影響
薬物乱用は、乱用する薬物を手に入れるために窃盗、強盗、売春さらには殺人等の犯罪を誘発し、家庭の崩壊、社会秩序の破壊などの要因にもなっています。

乱用される代表的な違法薬物

覚せい剤

覚せい剤は脳を過剰に興奮させ、一時的に気分が高揚し疲労や眠気をなくします。
しかし、効果は長続きせず興奮の反動で脱力感が強く残ります。脳を強制的に興奮させるため、強い精神的依存を引き起こします。
1度の使用でやめられなくなることもある薬物です。
また、長期の使用で精神病になりやすく、幻覚や妄想といった症状が一生涯付きまとうこともあります。

大麻

大麻を使用すると、視覚や聴覚が研ぎ澄まされているような錯覚が起こります。その感覚が忘れられず、やめられない状態に陥ります。繰り返し使用しているうちに、**より強い刺激を求め覚せい剤などに手を出すようになります。**
覚せい剤などと比べて依存性が低い、安全性が高いなど誤った認識が広まっていますが決してそのようなことはありません。

危険ドラッグ

写真提供：厚生労働省、福岡県

「ハーブ」、「お香」、「アロマ」など一見すると危険な薬物だと分からないような名目で販売されています。
しかし、どのような物質がどれだけの量含まれているかわからず、**麻薬や覚せい剤と同等かそれ以上の作用があることもあります。**
使用すると意識障害、けいれんなどを引き起こしたり、最悪の場合死亡する事もあります。

薬物乱用の恐ろしさ

脳に深刻なダメージを与える

人間の脳は、千数百億個の神経細胞があり、その細胞同士が繋がり複雑な回路を形成しています。普段意識せず心臓を動かしたり、呼吸したりすることや、五感から得た情報を瞬時に処理し体の隅々まで伝達するなど、スーパーコンピュータ顔負けの機能を持っています。脳の働きによって人間の行動の全てがコントロールされていますが、薬物乱用はこの複雑な回路を破壊し、心身に様々な悪影響をもたらすのです。

脳の働きの例

運動
手足を思い通り動かしたりすることはもちろん、心臓や肺を動かし、細胞が生きていく上で不可欠な酸素を取り入れたり、体中に巡らせる。

記憶
過去に認識したことや、学習によって得た知識を整理する。いつでも必要な時に情報を取りだし、様々な状況で使えるようにする。

性格
自分自身の感情をコントロールすることや、相手を思いやることで、社会性やモラルを育み社会と調和できるようにする。

脳に薬物が入ると・・・

手足を思い通り動かせないことで交通事故を起こしたりする。また心臓や肺の機能が止まり呼吸困難やけいれんを起こし最悪の場合死に至ることもある。

現実と記憶の区別がつかなくなり、実際ないものが見えているように感じる幻覚の症状や、過去と現在を正しく認識できない妄想などの症状があらわれる。

急に暴力的になったり、感情のコントロールが出来ない状態となる。また、薬物がないと不安になるため、家族や友達よりも薬物を優先するようになったりする。

薬物が徐々に効かなくなり使用量が増える（耐性）

薬物をやめたくても自分をコントロールできないためやめられない（依存）

専門的な治療を受けたとしても…

「再乱用のリスク」

回復の道もありますが、依存症は一生付き合わなければならない病気です。**薬物を乱用し脳の機能が変化してしまった人は、このリスクを抱えて生きていかなくてはなりません。**
また、再乱用をしなくてもストレスや飲酒などが引き金となって、突然元の症状にもどってしまうフラッシュバックという現象が起こることもあります。